

「地域に根ざす保小中一貫教育」

0歳から15歳まで、子どもは地域の宝

まち全体で、子どもたちの教育について考えようと、大阪教育大学の野口克海^{かみ}さんを迎え、1月23日、教育講演会を町文化センターで開きました。

野口さんは、大人が子どもの発達段階の特質を知り、愛情を持って子どもに接していくことがいかに大切かを、自らの体験を通して具体的に話しました。人として、親として心に染み入る話で、参加した120人の町民は、目頭を熱くしながら熱心に聞き入りました。

愛のシャワーを注ぐ！

「今日は心が温かくなる話をします」と話し始めた野口さん。自らの教師時代のエピソードを通して、子どもたちに『愛のシャワーを注ぐ』ことがいかに大切かを話しました。

大阪でも有数の荒れた中学校へ自ら志願して赴任。そこで生徒と向き合った話をしました。学校で一番荒れていた生徒をなんとか変えたいという熱い思いから、生徒との山ごもりを計画した野口さん。勉強や寝食をともにしながら、脱走や葛藤を繰り返しながら、やがて心を通わせる二人。

ある夜、自分の生い立ちを話し始めた生徒。「あの一歩のワルが、僕の手を握って生い立ちを話し始めるんですよ。子どもは変わる。僕は、お前も大変やったんやなあ」と話したよ」と当時を

振り返りながら目を少し潤ませる野口さん。この話に、会場では流れる涙を拭う参加者の姿が見られました。

子どもたちに愛情を注ぎ、『子どもは変わる』という強い信念を持って実践してきた野口さんの話だからこそ、心にジーンと響いてくるものがありました。

発達段階に応じて

また、経験に裏付けられた子育てに対する考え方や、子どもの発達に応じた関わり方についても分かりやすく話しました。「乳児期には愛情を注ぎ、幼児期には多くの体験をさせて命の尊さを学ばせる。学童期には自信をつけさせ、自分が必要とされていることで自信になり、頑張れるんや」と、大人が子どもの発達段階の特質を知り、愛情を持って子どもに接していくこ

とが大事であることを、身振り手振りで熱く語りました。

さらに、思春期に触れ、「今は昔と違って、早い子では10歳ぐらいから思春期に入っている。心と体の成長が合わず、アンバランスな状態。命令口調では伝わらない」。そして、「仏教の言葉に『同行二人』という言葉がある。手をつないで、一緒に歩いていくという意味です。同行二人で接するのがいいんや」と話しました。

地域・家庭の協力

最後に、学力について話しました。あるスポーツ選手の例を挙げ、「親が自分の子どもに才能があるか聞いたんやて。その時、その選手は『最初からできる子どもはいません。練習を続けることができることも才能ではないですか。長い目で見てあげてください』と話したというんや。すごいな。子どもの才能は今だけ見ても判断できない。長い目で見てやるものや」と大人が焦らないことが大事だと話しました。

子育てや教育は、家庭と学校だけでは無理。地域の協力も不可欠であると結びました。

教師時代の経験から、子どもへの愛情がいかに大切か話す野口さん



2 現状と課題

- ・保育所保護者アンケートの実施
- ・全国学力・学習状況調査結果の分析
- ・国のデータ等



題「地域に根ざす保小中一貫教育」
講師 野口 悠海 氏（鳥取県立日野町立日野小学校校長）



講演に先立ち、教育委員会が保小中一貫教育について説明

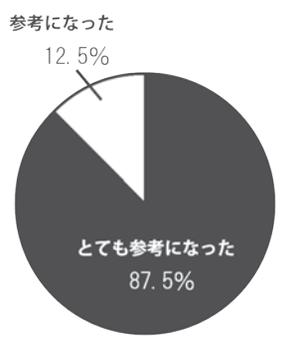
経験に基づく話を聞き、実践を誓う参加者ら

参加者の声から

◆研修会の満足度

- ・参加者数= 120人
- ・アンケート回答数= 80人
- ・回答率= 66.7%

**回答者全員が
参考になったと回答！**



◆参加者の感想（抜粋）

- ・面白く、とても分かりやすいお話で感動した。もっと聞きたかった。また、野口先生をお招きして講演していただきたい
- ・もっと多くの保小中の保護者に聞いて欲しい内容だった
- ・「子どもは変わる」大人の関わりの大切さを痛感した
- ・地域で育てることの大切さを学んだ
- ・孫が反抗期に入り心配の日々を送っていたが、先生の話聞いて気持ちが楽になった
- ・側に寄り添いながら、自我（子ども）を大切にしようと思った
- ・改めて、家庭の役割、親である私の責任を感じた
- ・とても良い講演。30年前に聞いていたらもっとまじな親になれていたかもしれないと思った

教育委員会からのメッセージ

◆『日野町子ども15年プラン』の策定

保小中一貫教育を推進するため、今年4月から、ひのっこ保育所と子育て支援室「おひさまひろば」の所管を健康福祉課から教育委員会事務局に移します。この業務移管は、保育や子育て支援業務を、教育的側面を重視しながら総合的・系統的に進めることを主な狙いとしています。

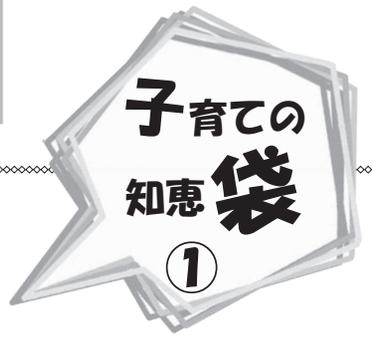
もたちの育ちを大切に、一貫した教育を進めていくために『日野町子ども15年プラン』を作成することにしました。3月の策定を目指し、現在、専門家チームを組織し策定作業を行っています。

教育委員会ではこれを機に、日野町に生まれ育ち、中学校を卒業するまでの0歳から15歳までの子ども

この計画は、10年先の日野町の姿を見据えながら、今後5年間に取り組むべき教育の方向性を示す教育振興計画として位置付けています。

【15年プランの性格】

- 教育振興計画
 - ▶ 10年先の日野町の姿を見据えながら、今後5年間に取り組むべき教育の方向性を示す教育振興計画として位置付ける
- 計画の範囲
 - ▶ 5年間（平成23年度～27年度）
- 計画の対象
 - ▶ 日野町に生まれ育つ0歳から15歳までの乳幼児・児童・生徒



一日一回は、子どもを抱く
一日一回は、子どもの目を見て話す
一日一回は、ほめてやる

いつも心がけて、わが子を育てました **日野町 73歳**

「おじいちゃん、おばあちゃんの子育て知恵袋」より
2006年3月 鳥取県連合婦人会発行